

大腸憩室出血における経口抗凝固薬服用についての調査研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間: 2019年9月4日 ~ 2020年3月31日

〔研究課題〕 多施設共同研究による大腸憩室出血をきたした DOAC 内服超高齢者に対する調査研究

〔研究目的〕 わが国では大腸憩室出血が増加しており、要因として抗血栓薬や高齢化が推測されています。最近血栓症予防に経口抗凝固薬（direct oral anticoagulant; DOAC）がよく処方されるようになり、それに伴って服用者におこる大腸憩室出血が目立ってきていますが、現状については情報が少なく明らかではありません。本研究は、多施設共同研究により大腸憩室出血患者様を調査し、超高齢者の大腸憩室出血について臨床に役立つ情報を得ることを目的としています。

〔研究意義〕 本研究によって経口抗凝固薬を服用中に生じた大腸憩室出血の現状がわかり、予防や治療などの対策の質が向上します。

〔対象・研究方法〕 医療記録（カルテ）から、2013年1月～2018年12月までに、当院内科に入院となった全大腸憩室出血患者さんの中から経口抗凝固薬を服用している方を選び、行った処置（内視鏡的止血術や血管塞栓術など）とその結果（止血の可否）、輸血の有無、再出血の有無を調査します。また背景因子（年齢、性別、基礎疾患、併存疾患、併用薬、疾患の部位など）も併せて調査します。調査した内容は個人が特定されない形に匿名化した上で他施設のデータと合わせて解析します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部内科学講座消化管研究室

〔個人情報の取り扱い〕個人が特定され得る記録については暗号化し、学内の規定（プライバシーポリシー）に従って、学内の施錠可能な場所に保管します。研究終了後は、保管対象となる記録類一式を封かん用封筒に詰めて、帝京大学臨床研究センターで10年間保管します。封かん後の保管および破棄は手順書に従って行います。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部内科学講座消化管研究室 教授 山本貴嗣 ymmt@med.teikyo-u.ac.jp

研究分担者: 帝京大学医学部内科学講座消化管研究室 大学院生 丸山喬平

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211(代表) [内線 7030]